

和歌山盲学校 令和5年度 第2回学校運営協議会記録

開催日時:令和5年11月14日(火)10:00~12:00 和歌山盲学校会議室

出席者:委員5名(代理含む)、傍聴人(本校職員等)6人

【報告】第1回協議会以降の取組について

【議題】今後の本校のめざす姿について

【報告】第1回協議会以降の取組について

前回協議会以降の取り組みや、進路、学校啓発の取り組みについて学校側より報告。

○校長より前回協議会以降の取組について報告

・全国的な盲学校の在籍児童生徒数減少の傾向について、夏休みに2日間ワーキングを実施(3つのテーマ「よりよい寄宿舎生活」「盲学校啓発」「よりよい職場作り」)し学校課題を協議した内容を報告した
・関係機関と連携して実施した行事を紹介した(鮎つかみ、近畿盲学校生徒会連絡協議会、科学ヘジャンプ、按摩施術実習)。

○進路指導部長、理療科担当主事より進路指導や学校啓発の現状と課題について報告

・進路先として大学、専門学校、就職。作業所等。理療科は国家資格を取得すると、治療院、整形外科のマッサージや按摩。

・大学等は点字受験の支援がある。入学後の生活を円滑に行うことが大切。入学後は点字だけではなく音声等も活用して学習している。

・就職の場合、自動車の運転や視覚に頼るライン作業が難しいため、選択できる幅は狭いという課題がある。

・盲学校の生徒は作業をするに時間はかかるが仕事は丁寧であることを伝えている。

・理療科の啓発活動を眼科以外も広めていくようにしている。まだまだ知らない方が多い。本校での教育が必要だが入学につながっていない人もいると思っている。

【議題】今後の本校のめざす姿について

報告を受け、学校啓発や地域との連携、授業づくり等について協議を行った。

・4月から合理的配慮の提供が義務化になっている。できることとできないところはあるが、積極的に発信していくことが大切。

・学校から資料の提供があると、障害福祉課で啓発について協力することができる。

・老人会との連携など、もう少し自治会としても関わりを持ってほしいと思う。

・子どもたちは、外の場面で色々な人に関わる機会を作って欲しい。紀伊駅へ行って駅員さんに関わるなど地域の人と関わっているのを知ったので、もっと関わって欲しいと思っている。

・障害のある子どもは学校で完結したらだめ。もっと外へ発信していくことを考えなければならない。